



人権=心のマーク

人権啓発紙

# 輝きびと

R3.12.1

No.  
114

発行者 ● 大津市政策調整部  
人権・男女共同参画課  
TEL 528-2791・FAX 527-6288

## 新型コロナ禍時代とジェンダー ～ケアの視点から考える～

### 心の温度

おこっぺいるとき

悲しいとき

心の温度は

つめたくなる

うれしいとき

楽しいとき

心の温度は

温かくなる

心の温度が

つめたいから

温かいに

変わるとき

すてきな笑顔が

あふれる

小野小学校 6年(当時)

田口 愛子さん

第44回(令和2年度)

「わたしと人権」詩の部  
特選作品



瀬田東小学校 1年(当時)

小野 樹生さん

第44回(令和2年度)

「わたしと人権」ポスターの部  
特選作品

堅田中学校 3年(当時)

大木 舞桜さん

第44回(令和2年度)

「わたしと人権」ポスターの部  
特選作品



★ぐんぐんと そらまでとどけ いいところ

日吉台小学校 2年(当時) 浅居 陽和さん

★育てよう いじめに気付く 心の目

滋賀大学教育学部附属小学校 6年(当時) 加藤 颯真さん

★マスクごし それでもえ顔は 通じるよ

平野小学校 3年(当時) 荒浪 由柵さん

★あいさつは あなたを見てるって 合言葉

堅田中学校 2年(当時) 塩見 真依さん

★あの言葉 ふとしたときに 心刺す

青山中学校 3年(当時) 二澤 一葉さん

第44回(令和2年度)「わたしと人権」標語の部 特選作品

# 新型コロナウイルス禍時代とジェンダー

## ケアの視点から考える

新型コロナウイルス感染症の影響により、私たちが生きる現代社会において潜在化していた様々な問題が浮き彫りになってきました。その一つとして、社会的・文化的役割として形成されてきた男女のあり方であるジェンダー（社会的性別）に関する問題が挙げられます。

ジェンダーに関しては、人によって様々な考え方、価値観があり、一概に捉えることが難しい側面もある中で、多様化、複雑化する人権課題の一因にもなっています。

今号では、新型コロナウイルス感染症がもたらした課題について、皆さんにジェンダーの観点から考えていただくために、京都産業大学現代社会学部客員教授伊藤公雄先生に「新型コロナウイルス禍時代とジェンダー」というテーマで、主に女性が担ってきたケアに焦点を当てて寄稿いただきました。

### 新型コロナウイルスがもたらした課題

新型コロナウイルス禍の中で見えてきたことがいくつかあると思います。一つは、日本社会における医療をはじめとした人間のケアをする公的セクターの脆弱性です。OECD（経済協力開発機構）諸国の中で、日本は、人口あたりの公務員数と医師数の割合が極端に低い国なので

す。病床数や高度な医療器具は、世界でもトップクラスなのに、これに対応する人の数が圧倒的に少なく、結果として、自宅待機型の感染者が増加しました。人間の生命や健康は、人権の中でも最重要の課題なのに、結果的に悲惨な状況があちこちで生じたのです。今後、一層高齢化が進む日本社会にとって、今回のコロナ禍が顕在化させた日本の医療や福祉、さらに公的セクター全体の「もろさ」に対して、早急に対応が必要でしょう（このことについては、伊藤公雄「コロナが露わにした現代社会、1、2」、京都大学オンライン講座『立ち止まって考える』をご参照ください。YouTubeで簡単にアクセスできます）。

ジェンダー（社会的性別）の問題も注目されました。実際、新型コロナウイルスの感染が拡大し始めた2020年4月、国連は「新型コロナウイルスの女性への影響」という報告書を発表しています。そこでは、コロナ禍の中で生じた経済危機が、女性の雇用を奪う可能性や、DV・性暴力の増加の危機、ケアの役割を担うことが多い女性に過剰な負担がかかること、また世界の医療従事者の7割を占めると言われる女性の感染拡大の可能性など、今回のパンデミックが、女性の側に重くのしかかることを防ぐための様々な対策の必要性が訴えられています。

実際、日本でも内閣府男女共同参画局に設置された研究会でのレポート「コロナ下の女性への影響について」によって、女性たちへのコロナの影響が見えてきます。例えば2020年4月から8月の4ヶ月

で、男女とも就業者数・雇用者数が大幅に減少していますが、特に女性には男性のほぼ倍の方が職を失っています（就業者数では、男性37万人減に対して女性70万人減、雇用者数でも男性32万人減・女性は74万人減）。性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター（各都道府県に設置）の相談件数についても、2019年4月から9月と20年の同期間を比較すると、前年比15・5%増となっています。ステイホームやリモートワークの広がりの中で親しい間柄で生じる暴力の増加（性暴力のほとんどは「顔見知り」以上の身近な人が加害者になっていることはよく知られています）が見られるように思います。

さらに注目しなければならないことは、コロナ禍で女性の自殺が増加し始めていることです。世界中ほとんどの国で男性と女性の自殺死亡率は、男性が3倍から4倍くらい高いことが知られています。国際比較を見ると、日本は、韓国などとともに女性の自殺死亡率が高い国でした（といっても、男性が女性の倍くらい多かったのですが）。ここ10年ほど自殺者数は男女とも減少傾向にありましたが、2020年を通して見ると、前年と比べて男性（自殺者数14,055人）は23人減少したのに、女性（同7,026人）は935人も増加しているのです（警察庁のデータによる）。特に、若い世代の自殺が目立つのも、今回のコロナ禍での特徴です。コロナ禍で様々な負担が女性の肩により重くのしかかっていることが、こうしたデータからも見えてきます。

## 「ケア」の必要性について

では、男性はコロナをつまく乗り切ってきたのでしょうか。実は、新型コロナによる死者数は、男性の方が多いことが知られています。特に、40代から60代の働き盛り世代では、死者のほぼ8割が男

性なのです。また、新型コロナにより死亡した男性はしばしば生活習慣病に由来する既往症（特に糖尿病等）を持っているケースが多いです。ここにも、ケアの問題があると思います。

ここでいうケアは、医療や介護だけでなく、もっと幅広い言葉として考えてください。私は「自他（自分や他者）の身体や生命、さらに生活や気持ちなどへの配慮」として捉えています。多くの男性は、これまで女性のケアに依存しながら、自分も含む周囲へのケアが不足していたのではないのでしょうか。

今回のコロナ禍は、公的なケアの仕組みの弱さとともに、ケアの仕事を一方的に女性に押し付けてきた現代社会の問題を問いかけています。幅広い言葉でとらえる「ケア」という視座から、男性もまた、周囲と関わる必要があることを、明らかにしてくれたのではないのでしょうか。



## プロフィール

### 伊藤 公雄

1951年生まれ。京都産業大学現代社会学部客員教授・ダイバーシティ推進室長、京都大学・大阪大学名誉教授。文化社会学、政治社会学、ジェンダー論専攻。京都大学文学部・同大学院博士課程で社会学専攻後、イタリア政府給費留学生としてミラノ大学政治学部留学。大阪大学人間科学部助教授・教授を経て、京都大学院文学研究科・文学部教授。内閣府男女共同参画会議専門調査会委員、日本学術会議会員（23―24期）、大阪府・京都府・滋賀県の男女共同参画審議会会長などを歴任。現在、(独)国立女性教育会館監事、日本イタリア会館常務理事など。著書に『男らしくのゆくえ』『男性学入門』『ジェンダーの社会学』『男女共同参画』が問いかけるもの』など。共編著に『社会学ベーシックス』（全10巻、別巻1）、『新版 日本のフェミニズム』（全12巻）、『女性学・男性学 第3版』など。





坂本学区社会福祉協議会では、小中学校の夏休みや冬休みの期間を利用して、【さかもと寺子屋教室】を比叡ふれあいセンターにて開催しており、近隣の小中学生が宿題を持ち寄って参加しています。

平成27年度より地域の方々や近隣学校の先生方がこの活動を支援してくれています。この活動は、学校生活を長い期間離れる時期に子どもたちの生活習慣や学習習慣を保つ目的の他に、子どもたちを地域の大人の目で見守るために行っています。

昨今は人間関係が希薄になってきているとも言われることもあります。【さかもと寺子屋教室】は、長期休暇中、家庭の中だけで過ごす子どもが地域に出て、地域の方々や先生方に見守られ、自分が大事にされていることを実感することで安心し、人とのつながりに居心地の良さを覚える機会になっています。

また、同じ地域に生きる子どもたちと大人たちをつなぐきっかけになり、寺子屋教室の場以外でも良い関係性が続くことを願い、開催してきました。「人は自分が認められることで、他人を認めることができる。」といわれます。家族をはじめ、たくさんの大人と関わった子どもの心にはきっと他人を思いやる『芽』が芽生え、育つことでしょう。

子どもたちの心に他人を思いやる『芽』を育てるような活動はみなさんの周りにもあるかもしれません。夏の猛暑やコロナウイルス感染など、それぞれの地域での活動の壁となる事象も起こりえますが、子どもたちの心の『芽』を大きくしていくために、『つながり』を絶やさない工夫をしながら広めていく、【さかもと寺子屋教室】も『つながり』を大事に、輪を大きくしながら続けていきたいと思っています。

## 第45回

### 「わたしと人権」作品を募集しています

人権を守る大津市民の会では「人権の尊重された明るい社会」をめざし、作文、詩、標語、ポスター等の募集を行っています。女性、子ども、高齢者、障害者、同和問題、外国人などの人権にかかわる問題をぜひ作品にご応募ください。

#### 応募要領

##### (1) 募集期間

令和3年6月28日(月)～令和3年12月13日(月)

##### (2) 応募資格

大津市に在住・在学・在勤の方  
市内の保・幼・こ・小・中・高校生の個人の作品については、学校園を通してご応募ください。ただし、高校生は直接応募していただいても構いません。

##### (3) 募集作品 (未発表の作品に限ります。)

部 門	応募にあたって注意すること等
作 文	原稿用紙に記入(1,200字以内)
詩	内容は、「感想文」・「主張」・「体験記」・「意見」など
標 語	ハガキまたは、ハガキ大の用紙でご応募ください。(ハガキ1枚で複数応募可能)
ポスター	画用紙(4つ切)。作品には、 <b>人権の尊重された明るい社会にふさわしい文字</b> を必ず添えてください。
その他	<b>パネル1枚(横120cm×縦180cm)以内でパネルに掲示可能な作品</b> 人権尊重をアピールするにふさわしい作品(集団作品など上記四部門以外)

「住所・氏名・タイトル・年令・電話番号」を明記してください。

#### 審査・発表

- \* 作品審査は令和4年1月上旬の予定。審査結果は公表し、入賞者には直接通知します。
- \* 特別賞・特選受賞者には賞状と記念品を、佳作受賞者には賞状を贈呈します。
- \* 特別賞受賞者には、「ほのぼの賞」・「すこやか賞」・「ふれあい賞」・「ときめき賞」・「さわやか賞」の各賞を授与し、表彰式で賞します。
- \* 入賞作品は、冊子「わたしと人権」や大津市のホームページ等で公表するとともに、様々な団体や機関の人権啓発活動の資料として活用します。公表する際には、作品、学校園名、学年、氏名(一般の方はお住まいの地域)が公表されますので、ご了承の上で応募してください。尚、作品の著作権は大津市及び人権を守る大津市民の会に属しますのでご了承ください。
- \* 応募作品につきましては、原則返却いたしません。

#### 送り先・問い合わせ先

☎520-8575 大津市御陵町3番1号  
大津市教育委員会事務局 生涯学習課内  
「人権を守る大津市民の会」事務局  
☎(直通)528-2635

## あとがき

今号は、ジェンダーに関する特集記事を掲載させていただきました。ジェンダーという言葉は初めて聞いた方もいらっしゃるかもしれませんが、性別によって求められる社会的役割意識は、私たちが社会生活を送る中で自然に身に付いてきたものと言われており、良くも悪くも社会全体に様々な影響を及ぼしています。私たちはそれぞれ違った環境で育ち、ゆえに考え方が異なることもあり、一人ひとりが互いの価値観を認め合い、尊重し、共生できる社会が実現されることを願っています。

ご意見やご感想は  
TEL:00047(大津市浜大津四丁目1-1 明日都浜大津1階)  
大津市政策調整部 人権・男女共同参画課  
(0528-2791)まで